新板

一体法彙

全

一休和尚法語

きらのほうん

雲英文庫

もはんをもちとやはの多仏法ゆゑ法池ゆゑ仏事ふつくはいのゝ今ふいくらり喜々世ており指御夢のこゝろはこゝろへ
されゝへ公の事もはんのとゆゑくゝ法度のまゝくはこゝ変を仏法くりん稼んありて法花の文ふ親彼人遠相ゆゑ日と法のへ
はゝ文ろんはの文ゝくとゝ仏事とゝん指ふ同ゝ文ふのゝくゝ見給へと仏事まゝてはゝ天地ひゝけゝ通ゝ
ゝりふ来ゝりる事なゝとまゝ川の事をゝゝ指ふゝの法事ゝゝて法はゝのゝゝ御不審ゝ通ゝくは佛法せ
ゝはゝうゝやくゝとゝ通ゝゝ指ふゝゝんゝ指ゝゝゝてゝゝそのゝはゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ稼家ゝ用ゝゝゝ
やゝにゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑ死は僧海しゅくるぞうは氏将軍の御代なり
のむさうまくしさやうりうこう
「是乃世ゑ是はとくにはれ
まへ今日あり様第事はぐ海の事なしまとこう生れて
めどまくざれば乃絶とは死まへ屋こうくたうくと
してこるこのうこにはいもあると仏乃義と思ひて名こ
はやうへんみてこもしやうとまくひはされた人名乃ん
ふたうみて恵乃へあもこと
ぐくぐこに光法とこうい遍あれこの業果たう
ぞこ海くとくたこうふこいへ名利は言とあひ事こ
うはぞやうはとやいそ御乃名とあげ人ゑめらまんを
とふんとそことしてたうとうとあんまうしとそのふいさに
おこれりのくとくの　ぞ仏ふくきくゑ法ふ海こと乃

乃ハ第事は法度とそこむうひて世にまくこうひて巻んぐうあり人と
仏道ふぞやうはは乃人とやへ海年をもやくれもぐさ世に
まへ海のは甲は法くりんや結文ちあく乃話歌をもこと
あされひうへは極くこれのごくにはんもくこ世法ひて法ひ
はうちふは事もは法はくへは世間はてこい乃法はつくく
は法はくへくくとは三部法ふ已ぞ法海龍んの浄土と
のへ法へりは文字乃んはものまくあくろくたぐ心のまうど
とやはは迷ハはまんをくとは法祈ふひあう海ぐくの
仏とハ何といこ海乃あけ蓮たぐまひまくものいなし
は弄はくくは法はこうは法へハ何事もはまんとうんまのこせ
海くは海へ永国は法こうまやうにて祈はく宗達をもはめ
まのいこせへくまはは乃ゆせ法乃事巻とハ海ふはれを
はやはてもはとぐ死はうやうには海ふあはげふ蓮へはてくこと

まなぐらへ仏法乃法事共やう〳〵せいるゆ代なのえん
ゆゑとあはれ國果遊〳〵月日誰れ〳〵ん仏をいのゆゑにて
そのハ七十おのゝてまを年おもて忘れぬ心昌まぢせいけらく

おなごとにんぐつめまゆ位月の殺るゆ色をたれまゝ海〳〵
は寿どくちもるみゝくゝそ殺をそれ色へゑりて法華に拠乃
んゆゑすゝめゆへとぐりゑへ〳〵ゆゑされ法るゆの法めいどそむ況
ぐゝくゆゑゆてたひゝくゑるゑひ法ゑぬ法ゆゑて〳〵ゆめ〳〵事ゆゑひ
出りゑゝせゑゑ〳〵ゆ拠れゝゑゝゆゑゝくゝゑゝゑゝゑゝゑゝゑゝゑゝ拠
法笑殺をゆゑんゑゝくゝの乃ゑゝゆんゑゝゆてゑゝく海ゆゝく
いゝゝゝ法ゆゝぐゝゑゝゆどゝゑ法ゆりんゑゝを法ゆべゝく法ゆんゑゝ
ゝゝてゆゆゝこ法ゝゝゑゝゆゝゆゝゑゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ法不乃ゆゆ仏の
乃ゝをゆゑ法ゑゆゑゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ

何ゝゑゆゑ虚空ゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ

ゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ

濁世にいくへも町れ国に満月いく面なる光ひろい世なり
世こゝかれ町ゆ様いなるをとりあひくらでゞ福んじさうれ一ゆも
ちいくへの世事にてゆゝ様しれひさんれうこうり
何ごとを善面ぶちゝとさやりてハ現れ世の住居ぬなり
世こゝかれんいゝれる天ゆうこゝる乃かよゝ下れ人こゝれ様こゝ
ゆゝ光のみちゝてゆゝとさへ出町ごゝへもれいちあんこう
乃ちやうど九ゆんの出んげにまとれるゆゝ大ゆん行くの出世と
なゝせたもゝゆべゝ大世ゝる乃出説法よを少人ゝゆうゆゝの
町ゝ行るゆとゆくよき行ゝゆゝやうの事とやうゝりて出乃ゝ心
ゆそさ世行ゆまゝゝゆゝそのゝとりとあゝくゝゆゝよ様
ゆんゝ様ゝ様うけゝゆゝて様ゝゝ成仏ゆへさにあゝゆゝとゝに
ゆうゆゝよ人さいゝゝてゝゝ国ゝよ名とゆゝゝゆゝ様行にを
ゆあ行ゝゆゝれゆゝ人ゝ我ゝ様を出世のゝゝき事ゝゝて

世ゝ成仏とて色ちゝゆゝれひうをゝ様ちゝゆゝ様ゝゝとゝを見
せゝゆゝ事ゝゝゝゝゝ国ゝゝゝゝゝ

ゆ一相八万にりのそやよろにふまんをうけ一心相八万に相そやめに
見んしまぞーて相くなり仏なり仏なりよ三たるもん名のたゆとなるる
と佛の三どくと従行ぬ一よあんどん一よいりもくこれ事一三
よくちれんぜこれとこれ生心八今に到るまでこの心
見えとこくさればおいこうのんふ仏なりよくこれ
ありちうあんーてたがひにうるこのれるんこどあるー神をー
あるぬ見みれ一んれまさ今入ーくとなこ事とくりんじ相と
まこれさるを一世四百四病とうけ大くとうくるを一んせ智
和のさむ仏事といとひ大うんのくをあるをんぬされいばん一
心とれとめめこれ八六道のごうれ八ぬ生をうこ仏なり
死とこうこれ三心むのこ八ばんしといふものいうにもちんじゃ
ようけうくちもあれりのふーくちあれゆへよきこうせ仏法生
小生をあるくれをあるーめとれとものべのふ

病にして有あるうかよ八ーいゆ仏なるる事あ行不定
よあるーあおの生滅よあるにーあるくあ常とと仏ふ八入死
とのべて見とあれこれこれ雑ゆ中也ゆ八ひそ
法ん八ゆ八ゆこちあこ面と法ちんせーーまーとゆ事ーて行
相ちえおとさ心て仏神とを界神とをゆべくのやまやうど
ゑどの事見えとゆ心て法ゆ別あるべくの法ふちんこれゆーう
ゆーーひのゆこちゆ界界界界のかーーー

○ほくそうの作も古則話頭法華霊山池畔の昔乃
法華経をおしめ給ふなるべしとあしくうかうのて法顕に記あるせ
○ゆんらのいろめんのくれたるあしやうの不思議言不思議来生の
きこのてのより蕎麦のいろれるうえ
とひやひや図とうけとりてご三十日の年月のあり一年二年くふ
うとうけてあれーや振りまうの方のきやうの乃てのいろとろ生
の様子もたくれもくしくいみのそのみーさの一番えうのてひと
やしのへいぜうへうの三面ようとてのうくく大事のうよう長者の
くれくうのよのれどくふうしてやーあうの天地のひやくよりは
くたくまくまくまくたくたくの三面ようはうはるの長者たれ
やくれのくやはるまくはくのの書信とする迦大うこばうには
○くくじの面しの信頼とてのうれるうあれ様くせのらの言といふ
言くてはくれいくてのせんのたくくじやくーとこれふんとうえ

せうとやはたたうしてのくくやのいたくはくーのせいらのてのせん
のたくたくまくとのれくーんくてのたくてくん様んのはりくてのの
前はたくくぬのくてのたくくくらやくこうはのるとくはのるたく
のれうとやくよの面おのの離くーてのちいたにとふのはのるとう
乃理とやくまの見へ御へみのとうの前のれのれの井のの迦ばあくいい
いとのおくんのくんおあるの面とたくくんのあくばのくくはのの
○まんのうふのくくくくのくのくくくくくくくくくくくくくくく
見何へのやとやくふのくくや年のとてのくのくの見のの年月へ
てやうのいまのの一のへまんのうのの年のくてのたのいをのあく
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ぶつ　ぶつ　ぶつ　

我と見こうのたらしめてい掛あるしたいを二重とかけ
みれとしての意味いろろきこうちへ番はして第九事をおこ
あひひいをよひうれの事ありうれ字を別大事あり
○大うくのあんせんおきやうは猫間をとうる事ハ大ハこうこ
ゆへでうきうこうりてざうあひをとうくうらへあげ意を
奥へあてく報尚のまへにあるれ尚ハ初ことをうれてこうこい
まこそうきうれけこもれてめんがくあるう第一文おの
逆言をとうるく逆の元ま文んまよきう事をとんまを爲
くこうこいへこもどんたうあれたくあるめん
しまのまうんぶうたびはもてびとかまくい
まんざいの四うれとてくの死こうる所ようこうりてうつまけ
んはしまんはたうそうまれはそうとかハ
りんがんまをこうてはをとうこうはれ人乃見理ハ所こう

根をはえふまんざのハ命根ハ不絶とかいり絶まいたらしはけそうに
ちぶあるあやまちありやをみがくうして意をうへ人の根をつぶ
てぶせ根をとりをれまうまくはこれをまくあられひへこうのこ
○百でうやこのまの事ハ大きを百ぞうやうてのへうへていんぐるあ
るやまうあるしやとをぶくうへていきくぶんぐるにあちをとを也
ひ弱にりてを百しやうやこれ四にぐしてハ四果ハまこれせん
あうるのとかむ孫をそぶまくぐさやうをもてせうるんの
まうんけまくを四果ハあるとまくへたる事うそぶの川まを色
ちにぶうき事ハざのりんとをうるうまくぶひふまのぶんぐうをと
ヤハ四果にうるのぐしの事へかうく四果とハをちぐ
とのぶんまてひはとうれ根ぶまくせくの事をきうつひにを
せてをうれうる所大ちあるゆへよ大をせ八とかへ一根大
四まのくぶうこくぶだうあるうの事。まんくぶやうとあう

せつぽうやいんまようふと死ぬ人をもてやんとあさんとて水をを
はせて水をとる。大海といさごをもつてうめんとすれども
山をとりんとすれどもやうのおろかなる事ぞ人々終りよんのうを
ごうる事莫里をへぐそ。もしに百八ぼんのうれば百八ぼんの
勢をつきぐり。三世三世をめぐりまやうのたりをんい
こそ。せ死こうそそしてぐにさぐのありとおぼえあげさに
うけて。死人をとこと梁をめぐらにとどいて神をおがりもろ
くれ給くのたのをとうおひにやうりまうこをうけ
ふりをとそむこさいよくくをとうりくのあどく行の間より天
をとをの八せ世くうくめふくこ西方北西東方
北東義系金地獄浄土北浄土きんどんをこうこうして
もみたるものの大をこうんまいよりて大きんをのうちにを
たくをやうりきびしをやうきんを。極んをとうりて志うを

みたくをのそうをやーへかくに我てうに
いくうりよ下方民仏道を極ぐ事給をうをうをとていろく
くそいありといへをそをみれのくいいり生をあくらく浄をうり
ひくうりちくにおりまりきをやをのをうをんぐををやうををいふ
いいをくあれ。我んれうちにをいりををあれを
あり。我んの間にありある人菩薩大師にをふ地ろくと
きいつ生の不をやあくへていくく仏にをんをんちの
れをどくくをんをんちをいをくをとて為れの能
をうちやくのくをとくきんをいををうをうを極んをを
ちをいくうりとてを事をんのをにをを事をるをげきを
を我をりをんををやををるををーをを三をくをのをくせ
をんあくををうををををくりあ。ぢをくにあるくちをくをくを
別り世乃せをいをあを事をを北をををををくをくをを

いつまでのゝ[illegible]ぞやあらくへていりくこゝらく浄土とて[illegible]ふあくへ
うくばあんぢぐん中ノ三どくくとゝ[illegible]ゝ別浄土へゆくこと
くへのふくと[illegible]とへぐそてある事の迷ひの[illegible]
ぞうんまんら我りんまんそあ[illegible]紀事とゝくば一稱あい
まくむにりてちぐくにとゝ[illegible]ゝこどくとゝとして八万
四千ぐんのうをあらくゝ則ちぐくゝとゝふをさとると
いふをおいられた同ノ[illegible]我りんまんをさとゝくゝと[illegible]
あゝぐくゝ[illegible]我んの外にべちゝ[illegible]紀事をとゝくゝ[illegible]て
ひうへを事くんにりけばくゝあうゝ[illegible]ゝ[illegible]事
くくゝひゝべくくにぐんぐいのくくをゝんてくくとみらいを
まくとはくゝやうにとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ぐやくくとんくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
事くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

くくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ
いへくゝんあくくぐる事ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
くくくく

こう月の満ぬいけて行をあ〜とてかくはまくさ物の月
をこの方にいつふんをもあれいかゝとゝ思ふこそあれ
嵐山りさけの橋とろうにかゝりて〜と男女つゝれ
行ふあをを程ハあり〜時ふる貴をさそひていちゆらん
年ごろの時あれそむる多ふなどと思ふの橋ふたあ〜たきれ
月ハあんいあ〜とるゝとにハかりの世ハまあひなりそう
あやふれあ〜をうせあんいよ〜へのよあ志〜ぬんあ〜
花とゝんよくをとるに数日あてゆきたよ志ハをにそう
そ川雲乃はもの程をれそりゆくうとひと行あんさん
稲をゆ月日の数ハ我とふれと我とふるゝ人はあ〜
川まそう身とゝろ〜にあ〜果てはのの乃とハ稲ハ乃
六親のためをせそく市家〜て世ハはものの乃ひきとせよ
ちをそものにごりよんそのあ〜ぬあの身ハ兵そ〜まれ志ぬ実れ

俄よ代稲ひてをやおりれ乃はをひくさをんくふう志てゝ
行とて行よ〜ひるんこゝろ遠ひのあれまゝひあそう
あてゝ川そて行ゝあ〜んあ〜れく一切所ゝ志有行ハ
ときをせいひもゆるそりしてあをせ志ぬ稲そと志ゝて新あ
ち志ハ咲ゝけゆ乃ち新志ゝとのむ乃ひあ志ぬ未常行
ゝんあ乃ゝるゝれよ〜ゝをちのゝ志ゝ川あて身源ゝ
ゝ〜ゝる神の源乃ゝくゝまあ乃新の月ゝのゝ志ゝふ
あいあすく兵一ゝ〜の法の乃をゆゝぬんのとくまなし
とのゝ川ゝ身ハゝ川ゝよあにゝりとくゝと常ハをゝと志ゝ
あるゝの世ゝあゝれ多安ハ身ハをもゝてゝ年をいそふんのゝ
世のゝさゝふくゝ行あゝはまのゝりゝとゝゝゝゝゝふん全ゝゝ
たゝんれるゝ法乃蓮ハむの身ハゝくハふゝれゝ文ハゝゝゝし
夫仏やまのゝやといあそみれ人のあにあげくゝんゝほとに

そのまゝにむま立ゐるゝのんこゝてゝ祈うつゝたゝてゝも仏のうつゝ
霧と消まゝゐ祈しとゝきめいゐるゝのけのこゝに男ハ
ゐるハ紀事ハせゝよゝあゝきゝ事ハ二世のさゝりとゝゝてゝ
ゐけゝれゝ面ゝのゝハそのまゝふゝゝけゝをゐゝゝれゝゐ
ゝゝゝゝんゝゝゝそのゝゝにゝゝるゝやゝ死法れ無人
むゝひゝそゝそゝんゝるハゐゝれんゝれゝゝき事ハつゝさゝあゝゝる
みゝゝゝもゝあゝゝゝゝ

同じくは花の末をくぬしとうきうの命あるん
日数たつまあられとも
世きとりに我世とやうめんもくあるとゆきうある世は
すゑこのうるんの月乃新とれてくまれきものの年の境界
もろもろくもあるの命とおむしれるこのふるもんあるぞに
うしや君はうくは世うまきてあらん海さ山とくも入先
さとりはてんの隠のこれぬまいもおるさみもるる月
あるとも入とも月とおもうもいんよかるれ山の埼もあり
右此一巻こもあれ先人ざたこの侍りしの人の拾とあひて
写とあ侍りぬとうしいさごと集りたるみれざたくどくのあるう
侍り海しやめくうとれ法の為とるとぶめ侍りしの花よるる
うるいのうるとものおるしひあいひつを侍りぬるん所
孤とをとのうちうるみちよ侍れ限あるみちとうよ

三月小　松會